

「サステイナブル」リードする人材育成

日栄商事環境設備セミナー

金 沢



約60名が参加した第11回環境設備勉強会=16日

日栄商事（本社・金沢市、中村哲郎取締役社長）は16日、第11回環境設備勉強会（主催・東芝キヤリア、パナソニック産機システムズ、荏原製作所）を金沢市も

のつくり会館で開き、参加者は金沢工業大学が進めている「Society 5.0」時代をリードする人材育成のさまざまな取り組みについて理

解を深めた。セミナーには同社取引関係者ら約60名が参加。冒頭、中村社長が今回のセミナーのプログラム内容を紹介した上で、「若干長丁場となりますが、皆様にとって実り多いものなることを願っています」とあいさつ。続いて金沢工業大学副学長・ライブラリーセンター館長の鹿田正昭氏が講師となり、「新しい時代『Society 5.0』」をリードする人材育成、社会との共創を軸にした

未来志向型教育研究」と題して基調講演。鹿田氏は国連が掲げた「SDGs（持続可能な開発目標）」の17の目標など地球規模の課題を解決するという大きな目標を学生に持たせることで「社会のために役立ちたい」と意欲を持ってもらい、その課題を授業の中で解決する」という社会との共創を軸にした教育プログラムについて紹介した。さらに自ら考え行動する技術者を育成するための高次のアクティブラーニン

グや、学生や教員に加え、社会人とが学び合うリカレント教育プログラムなど同大学が実施している先進的な教育研究、同大学の就職状況、鹿田氏が研究する空間情報工学と空間情報プロジェクトなどについて解説した。続いて同社空調部設計積算課から林腰芳興課長が同社の補助金活用物件の実績データなどについて報告するとともに、運用した後に失敗した事例とその原因の分析について紹介した。

この後、東芝キヤリアからは、空冷ヒートポンプ式熱源機「ユニバーサルスマートX」に新開発のグループコントロールとポンプキットを追加した「USX+提案事例」、パナソニック産機システムズからは、「ガスヒートポンプエアコン」、荏原製作所からはポンプ新製品の特長などの説明「フレッシュヤー3100」が行われた。

